



史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.13 袖が崎大正天皇行幸啓

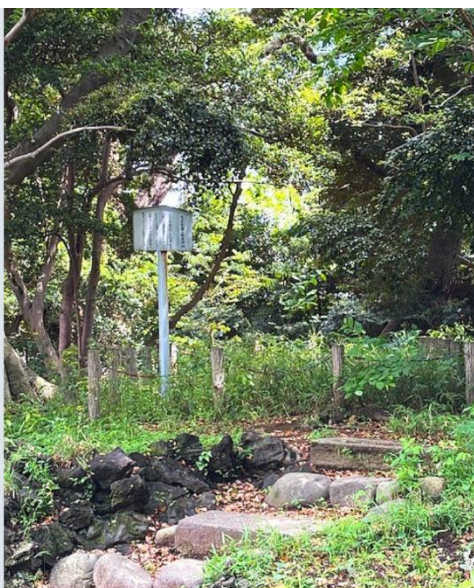


1917（大正6）年5月8日に島津家の迎賓館（旧島津家本邸）落成記念披露のための大正天皇行幸啓がありました。

今日では、大学の敷地一帯は通称「島津山」と呼ばれていますが、大正天皇行幸啓当時の地名は「袖が崎」といい、島津家ではこの屋敷を「袖が崎邸」と呼んでいました。

霧島つつじの美しい時期に合わせて、落成記念披露が行われたとみられます。

現在も霧島つつじが咲き誇る大学の奥庭には、この行幸啓時の天皇皇后両陛下のご休息場跡が残っています。

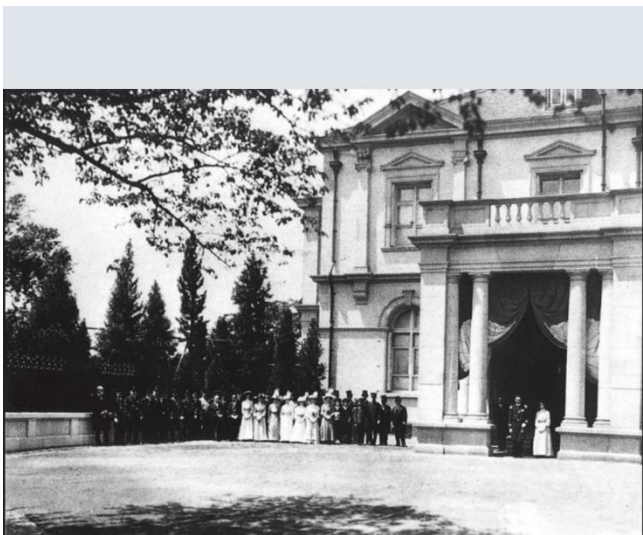


大正天皇行幸啓時ご休息所跡



大正天皇行幸啓時のご休息所跡の立札

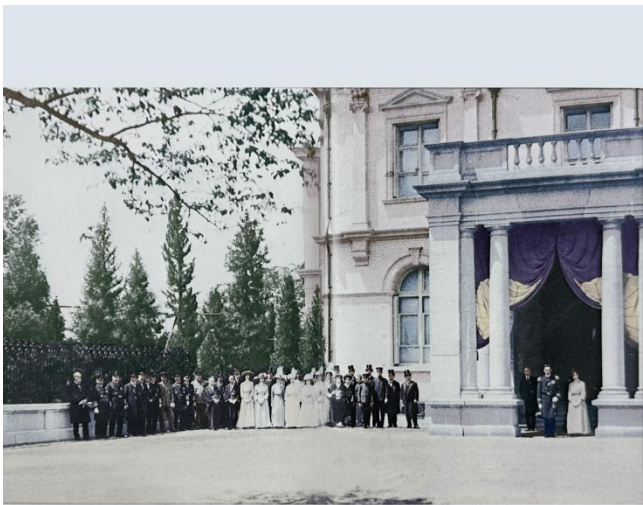
4枚目の写真は、現在、清泉女子大学の本館となっている旧島津家本邸の玄関前で大正天皇皇后両陛下のご到着をお待ちする島津家関係者です。第30代島津家当主の島津忠重公と伊楚子夫人が車寄せに立たれています。写真一番左には松方正義の姿も見えます。



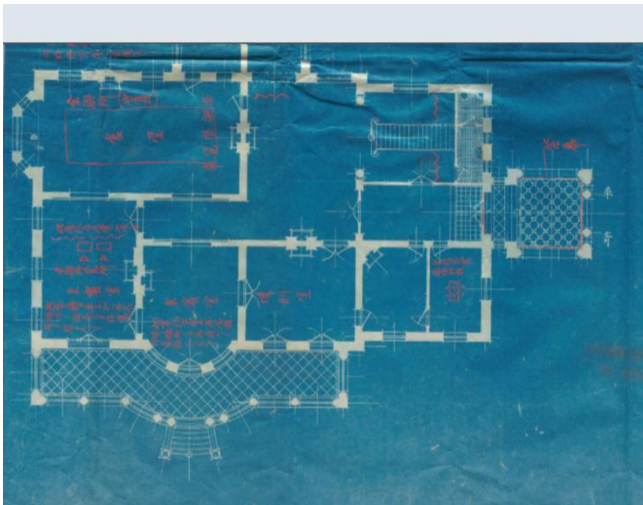
大正天皇皇后両陛下のご到着をお待ちする島津家関係者
(尚古集成館所蔵)

5枚目の写真は4枚目の写真に彩色処理を施したものです。

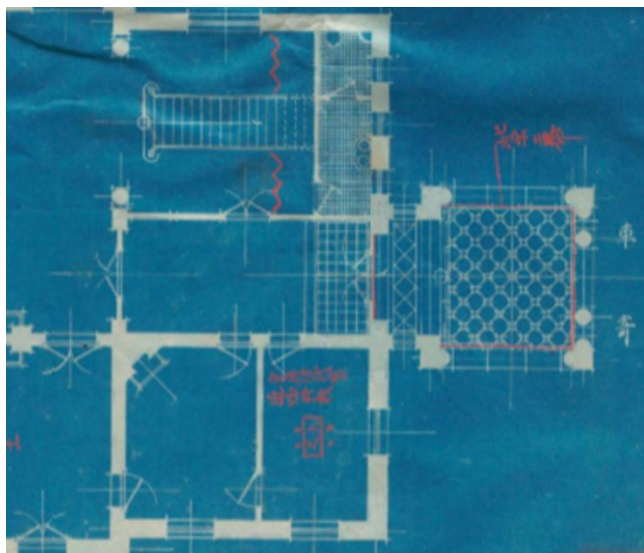
正面玄関の車寄せ部分の幕が紫色になっていますが、この幕の色については「長崎省吾関係文書 島津公爵邸洋館平面図」(国立国会図書館所蔵)に『紫幕』との記録が残っていることから、彩色処理が正しくなされていることがわかります。(写真6枚目、7枚目参照)



4枚目の写真に彩色処理を施した写真
(清泉女子大学所蔵)



長崎省吾関係文書 島津公爵邸洋館平面図
(国立国会図書館デジタルコレクションより)



「車寄」拡大部

図面右「車寄」上部に赤字で「紫幕」の文字が確認できる

この行幸啓の三日後の1917（大正6）年5月11日には、政財界の関係者2,000人余りを招待して園遊会が催されました。その際に「行幸啓記念絵葉書」（5枚の写真絵葉書）が配られましたが、当時の旧島津公爵邸の様子を知ることができます。史料室では、その絵葉書を展示しております。園遊会や記念絵葉書については、またの機会にご紹介したいと思います。

「史料室だより」は清泉女子大学公式Instagramにて連載中です。